

令和5年度（第3回）葉山町総合計画審議会 会議録

- ◇ **開催日時** 令和5年10月20日（金） 13時から14時30分まで
- ◇ **開催場所** 葉山町役場 3階 議会協議会室1
- ◇ **出席者** 臼井正樹会長、富樫俊夫委員、加藤清委員、近藤大輔委員、高梨麻美委員
福安德晃委員
- ◇ **欠席者** 八木麻衣委員、陸永充弘委員、早川隆子委員
- ◇ **事務局** 町田政策財政部長、佐野政策課長、大屋主任、山田主任
- ◇ **傍聴者** 2名
- ◇ **議 題**
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 第五次葉山町総合計画の策定について
 - ・計画期間・構成・体系
 - ・まちづくり未来アンケート速報
 - (2) その他
 - 3 閉会

◇ 資 料

- 令和5年度（第3回）葉山町総合計画審議会 次第
- 第五次葉山町総合計画の策定について（計画期間・構成・体系） (資料1)
- 施策の体系案 (資料2)
- まちづくり未来アンケート報告書 (資料3)
- 令和5年度第2回葉山町総合計画審議会議事録（案）

1 開会

事務局（大屋主任）

定刻になりましたので、これより令和5年度第3回葉山町総合計画審議会を開催させていただきます。発言の際はマイクのスイッチをオンにさせていただきようをお願いいたします。それでは、臼井会長よろしく申し上げます。

臼井会長

令和5年度の第3回葉山町総合計画審議会を始めさせていただきます。よろしく申し上げます。まずは今日の会議の成立状況、出席者の確認等について事務局の方から申し上げます。

事務局（大屋主任）

本日の審議会ですが、出席人数は6名となっております。葉山町総合計画審議会規則の第5条第2項の

規定により過半数以上の出席があるため、本審議会は成立していることをご報告させていただきます。

臼井会長

次に、傍聴について今日ご希望の方が二人いらっしゃいます。傍聴に関しては前にもお諮りしていますが、原則公開になっていますのでお入りいただきます。

2名入室

臼井会長

続いて今日の会議の資料の確認をお願いします。

事務局により資料確認（5点）

令和5年度（第3回）葉山町総合計画審議会 次第	
第五次葉山町総合計画の策定について（計画期間・構成・体系）	（資料1）
施策の体系案	（資料2）
まちづくり未来アンケート報告書	（資料3）
令和5年度第2回葉山市総合計画審議会議事録（案）	

2 議題

（1）第五次葉山町総合計画の策定について

・計画期間・構成・体系

臼井会長

それでは議題に入りたいと思います。議題（1）第五次葉山町総合計画の策定について、まずは計画期間・構成・体系について事務局からご説明をお願いします。

事務局（大屋主任）

それでは資料1をご覧ください。1. 計画期間・構成・体系について、まずは2ページをご覧ください。計画期間です。第五次葉山町総合計画においては計画期間を基本構想は16年間、2025年4月から2041年3月まで。年度で言うと、2025年度から2040年度までの16年間とさせていただきたいと考えております。基本計画については、4年間ごとにローリングをさせていただくようなイメージで1期から4期という形にしたいと考えています。

3ページをご覧ください。基本構想を16年間、2040年度までとした理由としては、まずは他自治体の動向・トレンドがあります。表にあるように、神奈川県をはじめとして、相模原市、寒川町など県内自治体の最近策定された総合計画は、2040年度までが計画期間となっています。横浜市に関しては、中期計画となっていますが、そういった総合的な行政計画において2040年までとする計画が増えていることがまず1つです。この各自治体が2040年までとしている理由の多くは、皆さんご承知だと思いますが、2040年問題があります。2040年は団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢者人口が最大となると言われている時期です。国立社会保障・人口問題研究所の令和5年度推計においては、2020年に比べ2040年には日本全体において生産年齢人口が約1300万人減少し、高齢化率は34.8%になるという推計が出ています。この社人研の令和5年度推計は、まだ市町村の結果は出ていませんが、その1つ前の平成30年

度の推計結果については、葉山町の高齢化率が 41.6%になるという推計がされている年です。本町におきましても、こういった社会問題やある種のトレンドを踏まえて、2040 年を見据えて計画を策定して実行に移していく必要があると考え、この様な計画期間としたいと考えているところです。

4 ページをご覧ください。首長任期との整理です。令和 4 年度第 2 回総合計画審議会、昨年度末の審議会において、皆様に計画期間についてご意見をいただきました。その際には、基本計画については行政計画であることから、首長の任期とある程度整合性をとるべきではないかというご意見をいただいたところです。今回、基本計画をこのように 4 年ごととすると、首長の任期と 1 年ずれることになるので、首長ないし役場の体制が変わっていく中で首長の意向もある程度反映することができるような計画期間になると考えています。

5 ページをご覧ください。目標方針策定について、まだ具体的なものではありませんが、町が目指す将来像の実現に向けては、バックキャスティング方式という、未来から現在へ向けて逆算をしながら目標や方針の設定をしていければと考えています。2040 年度の将来像の実現に向けて、例えば 2036 年度にはどこまでの目標を置くのか、2036 年度の達成に向けては 2032 年度にはどこまでの目標を置くのか、そういった視点をういながら、来るべき 2040 年の将来像の実現に向けて計画を作っていければと考えています。なお、特別委員会等で議員の皆様からもご意見をいただいておりますが、計画期間は 2040 年までとしたいと考えていますが、人口の減少などさらに先の未来を意識する必要があるとも考えています。そういった意識を持って今後、具体的な目標や方針を設定していければと考えています。

6 ページをご覧ください。施策の体系案です。前回お示しさせていただきました町に望む姿というものをベースに施策の体系案を作成したものです。まず、一番左が町民、行政と共有する町のイメージで、アンケート結果を受けて、第四次の将来像を仮置きしています。その隣が町に望む姿（仮）として子育てしたいまち、住み続けたいまち、自慢したいまちの 3 つを置かせていただいているところです。町に望む姿の右に行政分野①として、「子育てしたいまち」には教育と子育て、「住み続けたいまち」には福祉、保健・医療、安全・安心、ごみ、地域連携と 5 つの行政分野、「自慢したいまち」には産業、環境、文化という 3 つの行政分野、それら全て合わせて 10 の行政分野を当てています。一部内部資料的な部分もありますが、それに紐づく関係課を右のグレーのところで記載させていただいております。そして、行政分野②として、黄色の枠は、分野共通の基本的な取組みとして 5 つの分野を記載しています。この分野共通の基本的な取組みというのは、いわゆる執行体制やインフラということで、ハード面やソフト面を問わず、広義の意味でのインフラ基盤だと考えているところです。この行政分野②が町の基盤を支えて、その基盤の上で行政分野①が町に望む姿に向けて取り組んでいく。そういったことで将来像の実現につながっていくという流れを考えているところです。

7 ページをご覧ください。基本構想・基本計画を検討していく上での体系図ですが、これだけだとわかりづらいので A 3 の資料 2 をご覧ください。こちらの資料 2 に関しては、施策の体系比較で、上段は第五次総合計画での施策の体系案、下段が第四次総合計画の施策の体系を書いてあります。第四次においては、将来像は「美しい海と緑に 笑顔あふれる 心あたたかな ふるさと葉山」があり、その隣に 4 つの基本理念を置いております。それが“人を育てる”、“暮らしを守る”、“活力を創造する”、“みんなで作る”という 4 つですが、最初の 3 つが「人・暮らし、活力づくり編」とし、一番下の“みんなで作る”に関しては、「協働まちづくり編」としています。そちらに行政分野を紐付かせて、11 の基本目標をそれぞれの行政分野に置いてあります。そしてさらに 20 の施策分野の将来像を置いてあります。これが基本構

想という形になっており、後期基本計画では、47の基本施策、100を超える単位施策が紐付いているというのが施策体系となっています。それと比較して、第五次の基本構想は、まだ仮置きですが、町のイメージがあり、町に望む姿、これが第四次の基本理念になるようなものと位置づけさせていただきたいと考えています。それに10の行政分野が紐付き、それぞれの政策が紐付く。これが第五次の基本構想とし、基本計画においては、それに紐付く基本施策の数は、まだフィックスしていませんが、基本施策の下に5つの分野共通の基本的な取組というものを置きたいと考えています。ぱっと見て第四次に比べると少しコンパクトになるイメージになりますが4年間で基本計画をローリングしていくということを考えると、町民の皆さまにわかりやすく伝えるという意味で、こういった形で少しコンパクトにわかりやすいような計画にと考えています。

資料2の次のページをご覧ください。こちらは第四次後期基本計画の基本施策を今の施策の体系に紐付けたもので、こちらはあくまで参考ですが、今後、各課に作業いただく際の参考、また、皆様の実際のイメージにもなるので、実際に入れ替えたイメージの資料になります。

次のページ、こちらは基本計画レイアウト案です。こちらでもまた各課に作業いただく際の参考に作成したものではありませんが、第四次のレイアウトを第五次に置き換えたイメージで、第五次総合計画の基本計画においては各行政分野につき見開き1ページで構成できればと考えています。事例として第四次の福祉の部分のページを置いています。福祉の真ん中のカラーの部分、基本目標4の「一人ひとりが大切にされ、自立し、健康で生き生きと暮らしているまち」といった基本目標を政策名のところに置く。その下には現状と課題といたしまして、現状と課題のエッセンスを書いてもらう。その右上の方に、第四次総合計画における基本施策、福祉の分野でいうと地域福祉の充実、高齢者福祉の充実、障害児者福祉の充実、3つの基本施策がありますが、それがこの右上の部分でまとまっていく。そして、第四次総合計画における単位施策に関しては、右下に分野に関連する事業ということで、個別の事業名を紐づけていく。そして、その左の方に分野に関連する主な個別計画として、町では40を超える個別計画があるので、そこがイメージとして連動するように記載できればと考えています。実際の詳しい事業内容等については、個別計画にグリップをしてもらいイメージにつなげていければと考えています。以上が計画期間、構成、体系についての説明になります。

臼井会長

ありがとうございました。資料1と資料2の「計画期間・構成・体系」の案について事務局から説明いただきました。どこからでも結構ですのご意見がありましたらお願いします。いかがでしょう。

高梨委員

基本構想のところ、計画の部分などは、私達の意見も反映してくださり、検討いただきありがとうございます。その辺りについては、特に大きな意見はありません。レイアウトの図は、今回、まちづくり指標が抜けている形という理解であっていますでしょうか。

事務局（佐野課長）

実は、指標については、現段階で付ける、付けないは、内部でまだ固まりきれていません。以前、第四次総合計画の進捗について、こちらの審議会でもいろいろご意見をいただいているように、確かに指標

は進捗状況を図る上では有効だと思いますが、必ずしもその指標が適切かどうかについて少し疑問があります。指標は、第四次総合計画を立てる時、1つの数値目標という大きな取組みでしたが、結果的に第四次の中でそれに対する課題点が見つかっている。その様な部分では、指標が果たして適当なものなのか、分野の行政分野の進捗状況、目指す姿に向かっているのか、きちんと測れる指標になるか、もう少し検証が必要なので、場合によってはこちらのワンペーパーの中にうまく収められるような適当な指標が見つければ、また「こんな指標でいかがですか」ということで提案させていただきたいと、事務局としては考えております。

高梨委員

ありがとうございます。今のところですが、先ほどバックキャストिंगで目標を設定していくという説明がありましたので、それぞれの目標についてどこかで具体的記載が出るようなイメージでしょうか。

事務局（佐野課長）

今のご意見をいただき、各計画期間の基本計画の中の目標の中で、数値目標でなくても何かここがゴールというのがわかるようなものは記載すべきということは踏まえて、基本計画づくりにあたります。

臼井会長

バックキャストिंगの方式の質疑がありましたが、どう言えば良いのか、あまり言うと足を引っ張ってしまいますが、状況がどの様に進んでいくかでとても影響を受けるわけですから、最後を見据えて絵を描くのはとても大事ですが、最後を見据えて絵を描くことだけが大事ではない訳で、プロセスの中で状況に的確に対応することも求められています。その兼ね合いを上手くやってほしいと思います。状況設定、最後の設定が難しく、途中で気がつくとか、あるいは適当でないと気がついた時は、しがみつくのではなくて、何故そうなのか、もう一回ちゃんとアセスメントしていただき、その状況の中できちんとした対応を求められる対応をする事の方が大事かもしれない。

今の様な話をあまり強く言い過ぎると、場渡り的な状況に対応した施策の積み上げになってしまうのですが、でも逆に目標を決めてそれにこだわってやると、中身として本当に良いものになるか疑わしい部分もあるので、その両者の兼ね合いをどうとるのが一番大事なところです。それをきちんと意識していただければと思います。作る時に、最後を意識しながら、そこに向けてどうやって積み上げていくのかということで、作るのはとても大事なことです、それだけが方法ではないということもきちんと理解しておいてくださいという趣旨です。

事務局（町田部長）

実はこのバックキャストिंगの考え方について、総合計画の会議とは別なのですが、庁舎内の部長会議や公共施設のFM会議等の中でも議論をしたことがあり、私自身も実は咀嚼できていなくて、今、臼井会長がおっしゃったように、バックキャストिंगの考え方は一辺取りでいいのかというのはあります。今、VUCAの時代と言われている中、不確実、不透明な中で2040年のゴールを先に設定するのか、どうやってするのかということをおは庁舎内の会議で言ったことがありました。まさにそういったところだと思っています。一方で、積み上げ式で状況を見ながらいくことも大事という話をしたことがあったので、

兼ね合いだと思っています。ただ、なぜ事務局がこれを出したかという、役人の考え方から脱却をして実現可能な目標を設定する考え方にするため、バックキャストで大胆なものを作ってそれに向かってやっていくという心根を見せる必要は確かにあり、そういった旨味は前面に出しつつ、一方で兼ね合いのところでは既存のPDCAの回し方につながってくると思いますが、これからも積み上げ式をやっていく必要があるのかの庁舎内の議論はこれから併せてしていきたいと思っています。

高梨委員

今の話の中でPDCAのサイクルなのかもしれないですし、目標の見直しを目標方針のそれぞれの期間の後半のところでは設定をしていき、改善するという含めて、中に織り込んでいくような方針が良いのかと感じました。

臼井会長

ありがとうございます。あとはいかがでしょう。

近藤委員

3回目になり、今回少しスマートにするというのは、総合計画基本構想が上位計画ということで、腑に落ちてはいますが、何か少し物足りなさも若干感じています。これまでいろいろ総合計画審議会で議論させてもらっている中で、部局横断的な考え方や戦略的なもの、例えば、農業や漁業の一次産業支援と環境と教育が繋がる、高齢社会とライフサイエンスのつながりと地域等、その様な捉え方というのか、それはそれで骨組みとして良いのですが、私が何か言いたそうだけど発言を躊躇していたのは、例えば神奈川県の話で恐縮なのですが、神奈川県も今、総合計画を作っている最中であり、町の案とは違い戦略というのがあります。プロジェクトみたいな形で、基本的な部局に応じた施策があると同時に、いろんな部局横断的なプロジェクトの戦略があり、そこが大きな違いだと思います。人口減、海外の紛争、物価高があり、今後DXなど、兎角自主性がどんどん増してくるような時代の中で戦略的なものが、いっぱいある必要はなく3つ位あれば良いと思います。最初の話に戻すことになるので、発言しようかしまいか考えていたのですが、1つは部局横断的な施策をどの様にまとめていくのかが体系的に考えられた方が良いと思います。

臼井会長

今日、お話しいただいたので言うと、緑色の枠に町に望む姿があり、その下に行政分野で①がありますが、緑色の枠に対して1つ位は、その下の行政セクションが分かれてしまっている、逆にその行政セクションをまたがってでも何かやらなくてはいけないことを、緑色の枠について1つずつ意識的に置く。この類の話は、分野別にしてブレイクダウンしていった方が計画は作りやすいのですが、その作った計画にセクションの人が縛られてしまい、横断的に物を考えなくなってしまう危険があるので、緑色の枠について1つか2つ横断的に議論しなくてはならない事を意識的に設定しておくことができると近藤委員の提起に応えられるし、全くないわけではないですね。絵柄としては分割していく絵柄になっても、実際には横断的にやらなくてはならない仕事があるわけで、それを意識したその部分を忘れないようにした計画であることを忘れないためにも、緑色の枠組みの中に1つぐらひはあえてそういうのを意

識的に残しておいて、例示としてこう書いてありますが、全体でそれぞれ必要なことは横断的に調整して目標に向けて努力しようということを明記しておくのがとても大事なのではないですかね。

近藤委員

スマートすぎるというのは感じたことなのですが、早いうちに言っておいた方が良いかと思って、発言させていただきました。

事務局（町田部長）

今の近藤委員の話に対しての考え方ですが、まさにそのあたりを今日、ご意見いただきたいところです。我々としては先程、大屋の説明にもありました通り、まずは目的としては町民にわかりやすい総合計画にするには、なるべくシンプルに、この構想で階層に不要に深く入り込まないようにということが1つ、町民と一緒に作る計画だということは審議会の皆様からも常々言われていますので、町民のご理解がなければ総合計画の進捗はありえないということを意識したのが1つと、もう1つ佐野が先ほど申し上げた通り、個別計画との役割分担の話で、あまり総合計画が、言葉を選ばないで申し上げてしまうとしゃしゃり出るといふか、あまり細かくし過ぎてしまうと状況に応じた個別分野の必要性に応じた動きが取れなくなってしまうのではないかという懸念も一方でありました。ですので、うまくスマートに役割分担をすると結果的にこのような形になってしまうというような捉え方の整理が妥当なのか。それが町民や議会の皆様の理解が得られるのかという不安なところがありましたので、今、近藤委員がおっしゃったように、そういうことによって物足りなさが出てくるとか、戦略的な横断的なものだというところは我々もなかったもので、是非、そういった意見をいただきたいと思います。

臼井会長

とても大事なことで、町役場の仕事はどうしても縦割りで、それぞれの役割を決めて仕事をした方が効率的なのでそのような方向に動いていってしまうのですが、それを乗り越えなければいけない場面もあることをちゃんと計画の中でも意識していた方が良いかと思います。

高梨委員

内容のところ少し話が入ってきたと思うので、前回は申し上げたのですが、町に望む姿のところで「子育てしたいまち」というのが非常に限定的な印象を受けると私は感じています。教育というのは子どもだけを対象にするものではなく、今の生涯教育という観点からいくと、誰でもいつでも学びをするという機会を重視していくべきだと考えています。そうすると、0歳から15歳あるいは30歳から45歳という対象年齢が今回示されていますが、それだけではないはずということや、あるいは、町民だけではなく町に来てくれる人、これから住みたいと思う人も対象にした広い観点での教育を考えるべきではないかと感じていて、この姿の設定のところ少し疑問に思っています。また、「子育てについて」に限定して考えた時に、今、お話の中にあつた行政の区間で考えると、教育だけではなく福祉の方との関係も非常に強い領域だと思います。それがこの横で示されると分割されているように見えてしまうというところもあるので、もしかしたら、今の話を踏まえると、3つの緑の後に線が1本しかないですが、2つに分かれることがあっても良いのかと思います。内容については「ここも、ここも関わります」ということも

あるのかと思いますし、教育については、やはり、この子育てに限定しない緑を作っていただきたいと思っています。私達、町民がいつでもどこでも学べるという様な柱にさせていただけると嬉しいと思いますし、それについては、もしかすると一番下の文化とか環境等のことについても、「葉山町はとても良い教育の取り組み・実践を社会教育としてやっています」ということも売りになると思うし、やっていて欲しいという思いもあるので、今、手を挙げました。教育について1個大きい柱を立てていただけるのはとても嬉しいのですが、もう少しその中身を考えていただけると良いと思っています。

臼井会長

ありがとうございます。始まる前に少し話をしたのですが、子育てしたいまちだと小学生位までのお子さん、中学校まででも入れても良いですが、あとその親御さんを意識した話になってしまうので、生涯学習も入っていることも考えると、前は「人を育てる葉山町」だったけど、「人を育てるまち」でもいいし、あるいは「人が育つまち」でもいいし、少し広げた方が良くもしいかなと言う話を先程していました。仕事でも20年位のスパンで考えると、今まで成立していた仕事がなくなることもあり得るわけで、そうすると当然のことですが、古い言い方になれば、リカレント教育の様な形でもう一回新しいことにチャレンジできるような環境を町のレベルでやるのは難しいけど、それでも自分で学ぼうと思えば学べる位の条件整備であれば町でもできるかと思うので、少し広げた方が良くかという気はします。

高梨委員

「学びがうまれる」でも良いと思います。

臼井会長

そうですね。学びがうまれるでもいいですね。

高梨委員

教育を学校教育に限定しているように見えない方が良くも思っていて、また学びの捉えも今変わってきていますので、教授者が教えるということではなく、学習者が自分で自発的に学べる環境を整えるというところで考えていただけたら嬉しいと思います。

事務局（佐野課長）

ご意見ありがとうございます。おっしゃるとおり、前回の審議会では、この検討を進めるにあたり町民の皆様の意見から見えるものという話の中で、3つお示しさせていただきましたが、実は、その図の中では、先程おっしゃられた全部がクロスで紐付いていたのです。ですので、先程おっしゃった教育が子育てだけに見えてしまうという様な話は生涯学習、リカレントの話もあつたとおり、住み続けたり、自慢したりと書いてあるのですが、そこに全てかかってくるという話があるので、先程、臼井会長からもお話があつたとおり、各行政というものが「自分の分野はどこだろう」に気になるセクションがあつたりもするので、立て付け的に「あなたのところがここの分野です」というのを少し明確にし過ぎました。逆に言うと、その方が理解しやすいと思ってしまったのですが、最終的にまとめていくにあたり、議会からの意見もあるのですが、葉山町第四次総合計画は、とてもよく書けていて非の打ち所もない一方で、町としてどこ

に一番重点を置きたいのか少し見えづらい計画になっている部分もありました。今回は少し町に望む姿について限定的に見えてしまうような、そこはやはりそれだけをやるということは毛頭ないのですが、行政としては、確実に町民の皆さんに行政サービスが停滞しないように提供しながら、でもここは少し力を入れてやっていくというのが見えやすい計画になると良いという思いが正直に言えばあります。そういう思いでこの様な3本の柱を立ててみたのですが、高梨委員のおっしゃるとおり、子育てだけが教育という誤解を招く記載は改めるべきだと思いますので、そこがうまく他の2つの箱とリンクしているという部分も含めて記載を工夫したいと考えます。ありがとうございます。

加藤委員

私と皆さんといつも違う感じですが、私もこの2040年度までの計画というのを悪いと言っているのではないのですが、私自身に当てはめてみると、2040年度に丁度90歳位になります。今ここに書いてある団塊ジュニアが65歳ということになると、人生100年と言われている中、バックキャスト方式をやるとかなりいろいろな要素を取り込まないと難しいと思います。それは、年齢の件もあるし、団塊ジュニア世代は非常に難しいと思います。16年が悪いというわけではなく20年先を考えるとかなり考えないと難しいというのが私の1つ目の感想です。それと二つ目は、施策の体系「自慢したいまち」について、いつも御用邸が出てきますが、確かに私も御用邸は自慢しますが、他に何かないのか、作ってまでも、というわけではないのですが、この16年で考えていくな風光明媚だけでなく何かもう1つ位必要ではないかと常々思っていました。これは少し蛇足ですが、裕次郎記念館が小樽にあり、もう10年位前になりますが、閉館になるから葉山に持ってこようという構想もあったことを聞いています。裕次郎記念館が良いというわけではなく、その様なもう1つ位、自慢のできる何かないのかとよく感じます。逆にその辺を16年で考えていかれたら良いのかと思っています。

臼井会長

バックキャストでやるときに、総花的にいろんなことを意識し過ぎてしまうと、逆にうまくいかないのかもしれないです。だから例えば、4年単位で1期、2期、3期、4期があり、最後の2040年のところはかなり限定した優先順位の高そうな目標として大きなものだけにして、最初の4年間は、或いは次の8年目までは少し数があっても構わないけど、先に行く中で目標が少し絞られるような形を作っておかないと、つまり現実の話として先に行かずれてしまうという話です。そのズレを途中で修正しながら最後のところへ着地するためには、最終のところはかなり限定した大事なことだけ書き、それは4年目、8年目、例えば、最初50あったら次は40になって30になってみたいな限定がかかっている様な形で、しかもこの方向で続けて良いのかをチェックしながら進めていく工夫があるのかもしれない。だから最後のところをどの様なイメージで作るかに、かなり大きく、後で面倒なことが起きかねないので、そこはうまく精査した方が良いと思います。それからもう1つ御用邸以外の話ですが、計画に関わっているからということではないと思いますが、最近、葉山に関して割とテレビで見ることが多いです。葉山を舞台にした例えば、NHKの番組やドラマで葉山の加地邸が出てくる等、だから葉山が持っているもので多くの人に届く資源があるのですが、葉山がうまくその資源を使い切れてないのではないのでしょうか。御用邸は分かりやすいですが、例えば、古い物をあんまり皆さんは意識しないのかもしれませんが、鎌倉にも、逗子にもありますが、葉山の別荘地帯等もかなり特殊な財産です。或いは、葉山に転在していて集中

していませんが、食べ物屋さんでもレストランでもすごく評価の高いお店がありますが、集積してないが故に知っている人は知っている話になっていてもったいない。資源としてあり、分かっている人は分かっているけど、町役場も含めてあるいは葉山の近隣の人も含めてうまく活用しきれてないところがあるのかもしれない。もう少し葉山の持っている価値あるものをうまく意識して、計画の中で使えるといいですね。建築学的に価値がある建物、或いは、明治以降の歴史の中で価値のある別荘など、隠れているという話を聞くと「そうか」と思いますが、うまく調べてアクセスできません。テレビ番組で取り上げてくれて「こういうところがある」、「御用邸や町役場から、そう遠くないところにこんな古い価値のある建物があるのか」等、テレビ番組見て知るような話は、とてももったいないと思います。うまく活用できたらと思います。2つ目の話はそういうことではないかと。

加藤委員

今、臼井会長が言われましたが、たぶん20年か30年前、エコミュージアム構想がありましたが、それがたぶんそういうもので、あの当時と今を比べてずいぶん数が減ってしまいましたが、かなり価値ある建物があると思います。これからの16年、8年後でも良いのですが、その辺を上手く使って構想を立てた方が良いのかと。魅力ある町ということであれば、今、会長が言われた建築的なものも何件かありますし、県の文化財、国の文化財になったものもあるので、例えば散歩コースにもなるだろうし、その辺を上手く活用していただければと思っています。

臼井会長

それに、美味しいお昼ご飯を食べるところをセットにして、売り物にして、オーバーツーリズムにならない程度に宣伝するのは良いと思います。あと、いかがでしょう。

高梨委員

今の話も教育の観点から取り入れていくこともできるのではと思います。また、日本人だけではなく、例えばインターナショナルの目で見ても葉山という町にその様な教育財があると捉えていくことが非常に良いと感じているところです。

福安委員

先程、近藤議員がこれを見て「ちょっとモヤっとする」「ちょっとスマートすぎる」「ちょっと戦略がないかも」というコメントをされていて、実は私も「少しモヤっとする」と思っています。私はずっとプライベートセクターなので、プライベートセクター的な見方しかできないのですが、プライベートセクター方からすると多分相当モヤっとすると思います。理由をずっと考えていたのですが、私達企業だと、例えば、中期計画を立てる時、バックキャストिंगと言われていましたが、企業がバックキャストिंगをやるとすると最終的なゴールは多分数字で表します。数字で「この位の売上にしたい」「今のギャップがこれだけある」このギャップとは、「新しい事業のこれでいくら」「これでいくらいくら」「この年でいくら」と埋めていくと、5年後にこうなるという見せ方をします。そうするとその企業がこれからどの様な投資をしていき、どの様に成長していくか、結構わかりやすいのです。それを踏まえてこれを見ると、望む姿として「子育てしたいまち」はあるとは思いますが、では、実際に何十年か後に葉山とい

う町が、例えばとても人が増えているのかとか、若い人が多いのかとか、それともマイアミみたいな町になっているのか、あと企業がたくさん出てきているとか。その様なイメージはあんまり見えていません。具体的に葉山がどのような感じになっているのかが、何となく見えにくいというモヤモヤ感があります。近藤委員が先程「戦略がない」と言われていましたが、おそらくそういうところなのかと思った次第です。企業が立てる中期計画と違ってパブリックセクターの計画は、こういうものと言われればそれまでですが、プライベートセクターの人間からするとやはりモヤっとすると感じます。

事務局（佐野課長）

とても貴重なご意見ありがとうございます。その様な意味では、先ほど最初に高梨委員の方から指標のお話をいただきました。それがこの後、内部の議論でどうなるかですが、「子育てしたいまち」を目標に掲げた時、それを政策的に強化していった結果、果たして町はどの様なイメージになるのか、この様なことに取り組んだからこういう結果があったというもの、例えば、人口減少の中で葉山町には多くの子育て世代の方が転入してきて、子育てする人達がどの位の数になっているのか等、具体的な取組みの結果が見える何かがないとイメージしづらいというご意見でしょうか。

福安委員

例えば今と比べて若い人を増やしたいというなら、そのための施策があるわけで、もしくは「今のこの町よりもお金持ち層を増やしたい」というイメージを持っているのなら、その施策があるわけです。「今より 20 代の人をこれだけ増やしたい、だからこうやる」みたいなバックキャスティングだと、なんとなくイメージが湧くのですが、「子育てしたいまち」だけだと、最終的にどこから来ているバックキャスティングになるのかが見えないという感覚です。

事務局（佐野課長）

とても貴重なご意見、考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

事務局（町田部長）

福安委員のおっしゃることはごもっともだと思います。今の時点で我々はテーブルに挙げていないので、例えば第五次総合計画では、将来の人口をどのように想定するか全くテーブルに挙げていなかったもので、第四次は 33,000 人を維持していくことを目標とします。「目指します」と書いたのですが、今回、第五次に減少局面に入っている中で今の 32,500 人位を維持していくという書き方にするのか、それとも減っていくけれども、1 つ目の柱にしている「子育てしたいまち」では、人口の減少は認めるけれども、子育て世帯の方を増やすのかというような、それはまさに戦略だと思います。そういった具体的なものを見せることによってバックキャスティングの最終的なゴールがなんとなくイメージ付くというのは、これから少し考えていかなくてはいけなと思っています。先程、議論にもなりました通り、今、まちづくり指標・数値目標も入れていない状況なので、その様なところの見える化を工夫しないとバックキャスティングの説得力がないと思いながら聞いていました。そこは課題だと思っています。

臼井会長

ありがとうございます。だいぶ議論が面白くなってきたところですが時間がかかりそうですね。

近藤委員

いろいろな角度から喋りたくなりますね。

富樫委員

私もこれを見させていただいた段階で行政区分というのと、町に望む姿というところの一致性について、第四次では、どこの行政機関が何をやるかというのはかなり絞られ明確でしたが、今度は、例えば「子育てしたいまち」とあったとした時に、それが教育や子育てだけの分野ではなくて、環境やいろんな分野がかかってくると思います。そうなってくると、ここの整合性というのはどこなのかを感じました。「住み続けたいまち」の中に教育の分野も入っているでしょうし、環境のところもあるでしょうし、この後の子ども達からのアンケートの中でも、「環境を守りたい」「環境がいい」というのはだいぶ出てきています。そういったところの観点でいうと、町の目指す姿と行政分野の一致性というのは先ほどクロスというお話もありましたが、その辺りも考えないと出てきづらいと感じました。

臼井会長

ありがとうございます。あとはどこからでも結構ですが、いかがでしょう。少し戻って言うと、計画の期間に関しては4年の計画をベースにして1期、2期、3期、4期の全体で16年の基本構想を作るようなことでも良いのかということだと思います。先ほど資料1の4ページで首長任期の話が書いてありましたが、始まる前に資料を読ませてもらえたので、首長任期の話をダイレクトに出さない方が良いのではとっていました。4年ごとに変わるのは首長だけでなく、例えば、町議会の方も、少し首長選挙とはずれているようですが、4年に1回選挙があるわけだし、選挙があり、町の議員と役場の方の首長が変わった時には当たり前ですが、行政機関の方と議会との調整があり町役場の幹部の方も異動があることが一般的なので、4年に1回新しい体制になります。町役場とはその様な仕組みの組織なので、4年に1回新しい体制になることを前提に、その中で新しい計画を作っていくと4年ごとになりますという説明の方が良いのではないのでしょうか。だから、「首長もそうですが、町役場の職員の方、町議会の皆さんも含めてみんなで、町民も含めて皆で新たな計画を考えていくタイミングとしては4年ごとのサイクルでやっていくのが良い」という提起の仕方の方が私はより望ましいのではと申し上げましたが、この部分、理屈はどうあれこの形でおおむね良さそうですね。

近藤委員

「すっきりした」という感想を申し上げましたが、行政分野のところには都市基盤、都市インフラが今回出ていません。これを読み下していくと、基本計画の中には都市インフラが出てきますが、その辺のインフラ整備の様なものを入れない考え方だとしても、安全安心なのか、環境なのかどこかの施策にハードの施策が入ってくると思います。そのハード施策の整理の仕方がわかりにくくなると思って見ていました。無くした考え方等あればお伺いしたいです。

事務局（佐野課長）

実はハードについて、先ほど説明させていただいた都市インフラについては、後ろの行政としてきちんと進めていくという話で今回は整理させていただきたいと考えています。その様な話をするにあたって、当然、行政の役割として粛々と町道を維持管理し、可能な限り交差点整備も含めて進めていくという話は後ろの行政側の役割として記載はしていくつもりです。ただ、ここは考え方があると思いますが、「道が狭いから町道を広くしてほしい」という話を「この様にやっていきます」という話はなかなか難しい部分があり、安全対策として、交通安全、防災、防犯等の分野で記載はできるものの、道路をどんどん拓けていきます、新しい道路整備、町道レベルで整備するというのはなかなか難しい部分があります。総合計画の昔話になってしまいますが、もともと昭和44年の地方自治法の改正で、釈迦に説法みたいな話になってしまいますが、地方公共団体に地方自治法の中で義務付けられて、平成23年までずっと義務付けはありましたが、昔、総合計画はこうやって作るものだ、という当時、昭和の時代だったので、国の方から示されたものに則ってやっていました。その頃にはまだ戦後臭の香りも漂う中で、国がやるものも県がやるものも全部一緒に総合計画に書いていくという話があり、葉山でも代々その様にしてきたのですが、進捗などの兼ね合いで、なるべく町が担える役割を中心に書いておいた方が進捗、管理等しやすいという部分があります。その様な意味では、先程、町道レベルという話をしましたが、あまり前面の町民の方に直結するようなところで整理するよりも、行政がきちんとやっていくという方で整理した方がむしろ分かりやすいのではないかと思います。後ろの方に整理したというのが今回の体系になっております。説明として不十分かもしれませんが、いかがでしょうか。

近藤委員

言わんとしていることはなんとなく受け止められますが、言い方があれば町づくりとか逆にもう少し大きな編み掛けをするみたいな。例えば、景観の話や開発の問題でもいろいろ課題があります。先程、言った戦略のところはどうしても行ってしまいますが、この先2040年の葉山に向けてどの様な町づくりをしていくのかみたいな。だから、都市基盤や都市インフラという、少し違うかと言いながら私は発言しているのですが、広義な町づくりみたいなこと。あと細い町道があって、それが実は対外的に葉山を見た時に「趣のある道でいい」という人もたくさんいらっしゃるんで、なかなか1つで議論を収束させていくのは難しいと思いますが、少し思いつくまま意見として申し上げておきます。

事務局（町田部長）

今の話を聞いていて思ったのですが、新たな発想での計画の策定で、いわゆるメリハリをつける、あるいは優先順位づけ、もう少し古めかしい言葉で言うと、選択と集中というか、どこかに力点を置いた計画づくりにしてしまうと変な誤解を生まないかというところで、都市インフラの整備、町づくりの観点からの施策は後退していくのではないかというような懸念材料を与えるような表現は避けたいと思っています。それもしっかりやりますという土台前提の中でメリハリをつけるという重要性は、行政の作り込みの段階で気をつけていきたいと思っています。

臼井会長

少しだけお願いですが、先程の事務局の説明の中で40位の個別計画があると言われていました。だか

ら、総合計画にぶら下がっている個別計画がどのようなものがあるのか、「この部分はこの計画に任せます、委ねます」みたいな事が、どこかで一覧できた方がよいと思います。知らない人にとっては、「計画がなしになってしまう」という心配が起きないようにしてあげた方がよいのと、個別計画のこれは宿命なのですが、個別であるがゆえに長期のスパンで考えるのはすごく難しいのです。具体のニーズがそこに見えているから、それを例えば16年先、2040年のことを考えて個別計画を考える時、例えば、この期は3年か5年かの中で20年後を踏まえてどうするかは、なかなか現実には難しいです。総合計画の中で大事なことは、例えば町づくりに関して大事な方針は、総合計画の中で個別の事業にならなくてよいから、考え方みたいなものを出せるようにしておいた方がよいのではないのでしょうか。例えば、先程、町道の話がありましたが、町道の幅を広げようとした時にやれる方法は、多くの場合、建て替えの時期を睨みながらセットバックで後ろへ下がってもらうしかないわけです。必要があればやればよいと思いますが、それをやって道幅を広げるのに、当たり前ですがすぐ20年位かかります。その20年をかけてでも道幅を広げる必要がある町道だという議論は、どこかがなくてははいけない。20年かかるものだから、個別計画の中での議論ではなく個別計画に対しての考え方で大きなものとして何かもの言って、全部でなくてよいから象徴的などころについてこうしてほしい、という方向性みたいなものを働きかける役割は総合計画にあってよいのかもしれないし、あった方が近藤委員の言われている部分に関しては正解だと思います。その部分の役割を計画の出来栄として、つまり事業にならないけれども考え方の様なものとして、総合計画の中で議論するものがあってよいということは意識した方がよいのかもしれない。そうしないと、それを20年先のことを考えて個別計画を作りなさいと押し付けるのは無理だし、ここで完全にできるかも怪しいです。こういう方向で議論が必要ということまでは言えると思います。いい発言をしてくださりありがとうございます。個別計画では答えが出せない問題があって、それは総合計画の中でも答えが出せないが、議論の方向としてこういうことを皆で議論しなくてははいけないとまでは言えるかもしれない。それを受けて場合によっては次のステップへ渡せるような機能がどこかにないといけないわけです。あと、いかがでしょう。

高梨委員

違うことですが、いただいている資料の1の6、7の「町に望む姿」のところ括弧で年齢がついていますが、おそらくこの人達を対象にした設定なのかと思いますが、例えば、先程の教育のところこの年齢を対象に限定をしないでほしいということも申し上げましたが、住み続けたいまちについても、例えば乳児期というのは、その子の生涯形成のとても重要な基盤になります。やはりそこから考えるべきだと思いますし、逆に言えば100歳になったらもういいというものもおかしな話だと思うので、こういった年齢で区切る必要があるのかをもう一度ご検討いただきたいと思いました。あと、説明の中に「これからの100年も安心安全で暮らし続けられる町」となっていますが、この100年という年限を区切るのが今回の計画は40年の計画であるということも含めて、整合性はどのような感じで捉えられているのかと少し気になりました。

事務局（佐野課長）

まず、年齢については、どこかに偏った政策にならないように、全部がちゃんとこの3本の柱の中に意識していますということをお示ししたくて書いてしまいましたが、かえってそこに限定されてしまう様

な見方であれば、当然書く必要はないと思っていますので、先程申し上げたとおり、クロスで全てかかってくる部分と認識しておりますので、その辺りも表記の際に気をつけたいと思います。

また、「100年」は、実は来年度には町制施行100周年記念を迎え、なんとなく今、100年という擦り込みがあり、つい私もこれからの100年を意識してしまっていたので、別に100年経ったらどうでもいいわけではなく、特に100年にこだわっているわけではないので、こちらの記載につきましては最終的に整える時には気をつけたいと思います。

臼井会長

意識の上ではこだわっていないのですが、意識が意識に出ない状態でこだわりがあるのでしょうか。

高梨委員

文字として残る時の資料の内容になるかと思いましたが申し上げました。

臼井会長

とりあえず2040年ですが、どこかに象徴的な文章で、100年経過した葉山町が次の100年をいい状態で迎えるための足掛かりとしての十何年だというような書き方を象徴の文章のどこかにあってもよいかもしれません。それはお任せします。

高梨委員

その様な形が入ると、これが12年で終わるものでなく、さらにというふうに見えてすごく良いと思います。ただここだけに書かれると、たぶん3つとも同じようにそれが出てくと思うので少し違和感が反応していました。

臼井会長

ありがとうございます。あといかがでしょう。だいぶ、少しほっとするようなところで収まってきているかもしれません。

高梨委員

この前議論にあった「自慢したいまち」の自慢が少し気になるというお話がありました。早川委員が今日いらっしゃらないので、またこのあたりの姿のところはご検討いただけるとのことでしょうか。

臼井会長

いろいろ議論はしてくださっているようです。少し強く出したいという思いと、強すぎてもどうなのか、というところで、ジレンマで悩んでいるようです。だいぶ議論が深まってきましたので、まちづくり未来アンケートの報告書案をご説明いただいて、若い方がどんな風な意見をお持ちなのか教えていただいて、次のディスカッション、次のステップの議論ができればと思います。ご説明をお願いしたいと思います。

・まちづくり未来アンケート速報

事務局（大屋主任）

それでは、資料3まちづくり未来アンケート報告書（速報版）を説明させていただきます。こちらは今年の6月から9月末にかけて実施した小中学生アンケートの結果についての速報版です。

表紙をおめくりください。1. 調査概要です。まず調査目的ですが、本アンケート調査は第五次総合計画を策定するにあたり、町の未来を担う子ども達に町の強み等を聞くことで、計画検討への基礎資料として活用することを目的に実施させていただきました。次に調査方法ですが、調査対象は町立小学校6年生及び町立中学校の3年生とし、ウェブフォームによる回答で実施しました。その際、同一人による二重回答を防ぐために校長会議等で調整を行わせていただき、質問の2つ目でクラスと出席番号を記入してもらいました。調査期間は、本依頼を出したのが6月7日で、回答期限を9月29日までを締め切りとしました。基本的には、主に授業の時間を活用いただき、小中学校で配っているタブレットを活用して回答してもらいました。回答状況については、5月1日時点の2学年の生徒数527名に対し388名の回答（回答率は73.6%）をいただきました。

続いて、3ページからは回答結果です。問1「あなたの通っている学校を教えてください」は見てのとりの結果です。問2「クラスと出席番号」は割愛しています。

問3「あなたは葉山町のことが好きですか」の回答は、「好き」が全体で87.1%、約9割という結果で、小中学生という割合で見ると、小学生の方が好きという割合が高い結果が出ています。下の棒グラフは3つのクロス集計の結果ですが、問5「定住意向」でクロスして見ると「住み続けたい」と思う子どもの方が「町を好きと感じている」結果が出ています。全体的に好きだと思ってくれていることがわかり少しほっとしているところです。

問4「葉山町の好きなところ（強み）、嫌いなところ（弱み）をそれぞれ教えてください。」の結果については、「好きなところ」の上位5つが、1位「海や山などの自然」、2位「お祭りなどの地域のイベント」、3位「治安」、4位「人柄やつながり」、5位「町並み」という結果で、「嫌いなところ」の上位の5つが「買い物をする場所」、「交通の便」、「公園」、「災害対策」、「ごみへの取組」という結果が出ています。それぞれの順位はこの5ページの棒グラフを見ていただければと思いますが、6ページではそれぞれの好きなものと強みと弱みの対比をさせています。上位の1位2位のところは好きと嫌いのバランスが両極端で、やはり自然は好きだと感じてくれることが多いですし、買い物に関してはやっぱり弱みだと思っている方が多い、というのが明確に出てはいますが、5位くらいになるとその辺が少し拮抗してくる特徴が見られています。7ページは、昨年度の町民アンケートで聞いた町の住みやすいところ住みにくいところ、強み、弱みを18歳以上の町民の方々に聞いたものとの比較となっています。厳密には選択肢の数が違うので、どこまで純粋に比較はできませんが、可視化したものです。上位の結果については、子ども達と町民アンケートではそう大きな変化は見られてはいないと思っています。好きなところについては、「自然」や「治安」といった部分、嫌いなところについては、「買い物の環境」や「交通の便」といったところで、ただ少し違うところは、弱みの「ごみに対する取組み」については、町民アンケートではあまり弱みではない。下から数えた方が早いぐらいの結果でしたが、今回、子ども達にとってごみに関しては弱みという結果が出ています。こちらに関しましては、町のごみに対する取組みが不十分だと感じているのか、逆にごみの分別が面倒くさいと思っているのかまでは読み取ることができません。ただ、以

前、私が環境課にいた際に中学校全クラスにアンケートを行った時の結果を見る限り、また、中高生議会の質問などを見ますと、子ども達の環境に対する意識は、かなり高いものがあるので、もしかしたら町としては取り組んでいるつもりであり、子どもとしたらまだ物足りなく感じている結果なのかもしれないと個人的には感じたところです。

8 ページの問5「将来も葉山町に住み続けたいと思いますか」は、全体としての定住意向については64.7%という結果です。小学生に比べて中学生の方が定住の意向が低下していることが結果として出ています。この結果は、高校以降の高等教育、もしくは就職等などの働き場所というのが町内にないもしくは少ないという状況を考えると、少しずつ未来を考え出す中学3年生というタイミングにおいては、ある種、健全な結果、健全というのもどうかと思いますが、ただ町の実情を子ども達が理解しだして、将来に向けて考え出す結果として自然と出てきてしまうものなのかと思っています。

9 ページの問6「定住意向の答えの理由」について、「住み続けたいと思う理由」に関しては、町の強みとして回答いただいている「自然環境」、「人のつながり」、「都市環境の安全性」といったものがそのまま定住意向につながっている結果が出ています。10 ページの「住み続けたくない理由」では、こちらも「都市環境の利便性」、「交通の便利」、「商業施設がない」といった部分に多く回答が集まっていますが、やはり加えて将来の働く場としての意見だと思いますが、「仕事場がない」といった理由が6件ありました。また、その他の意見として、「違うところに住みたい」、「都会に住みたい」、「海外に行きたい」という意見もあり、また、1件だけですが「故郷にしたいから一旦町を離れてみたい」と、ユニークな意見だと思って見ていたところですが、その様な町の郷土愛といった部分で町を捉えていただいている子もいたという結果が出ています。

11 ページの問7「あなたが考える、葉山町で「将来に残したいもの、残したいこと」「自慢できるもの、自慢できること」などを教えてください。場所、もの、イメージ、身近なことなどを問わず、自由に書いてください。」の自由記述では、多くは「自然環境」、特に海についての回答が多く185名もの回答がありました。続いて「自然」133名、「山」78名と続きますが、その次が「イベント」のところの「お祭りイベント」76名、「花火大会」63名と続いています。お祭りや地域のイベントについては、町の強みでも2番目に多い回答があったほど、子ども達にとっては重要なものになっていると考えられます。これはコロナ禍を経て人とのつながりがより実感できる場の重要性が増したということなのかと思っています。特に今年の夏祭りは各所で行われましたが、私も長柄の御霊神社の祭りに参加しましたが、こんなにも盛り上がるのだなと感じました。そこで地域のつながりの様なものは参加された方は感じられたと思っているので、子ども達、特にこのアンケートのタイミングが6月から9月で、9月以降もかなり回答を提出いただいているので、夏休みを経てそういったイベントに参加して、やっぱりいいなと思ってもらっているのかもしれない。

12 ページの問8「あなたはこれからの葉山町がどうなってほしいと思いますか」について、自由記述の一番多い回答がやはり「自然豊かな町」という回答でした。次に多かったのが、32件で「このまま」です。こちら、以前、報告させていただいたワーキンググループの結果報告でも「今のまま葉山」といった意見があったように、この町の空気感みたいなものをすごく魅力に感じてもらっている子どもが多いのではないかと思います。

14 ページの問9「あなたが町長だったらやってみたいと思うことを自由に書いてください」の自由記述では、こちら大分類で言うと「店舗について」の回答が多く、特に「ショッピングモールを作る」が31

件、「買い物ができるところ」22件など、そういった回答が多かったです。他には、交通に関する回答も多く、弱みについて解決できたらと思っている子どもが多いという意思が感じられました。また、先ほど富樫委員からもお話しありました通り、最初の自然環境のところで「自然を保護」、「環境保全活動をする」という回答が多かったのと、町の施策でも「ゴミ拾いをしてポイ捨てを減らして町をきれいにする」に11件も回答が集まっているなど、環境への意識の高さがこの様なところからも伺えました。これらの回答は、「駅を作ってほしい」という回答も多くあるので、実現できるかどうかは置いておきまして、何かしらヒントにはなるかと思っていますので、どこかで各課も共有できればと思っています。17ページ以降は実際の調査票です。速報版の説明は以上です。

臼井会長

資料3でまちづくり未来アンケートをご報告いただきました。感想でも結構ですので、何かご意見がありましたら、お願いします。いかがでしょうか。

高梨委員

事務局の結果の考察のところでもお話しされていたのですが、問4の説明のところでは葉山町の好きなところ（強み）、嫌いなところ（弱み）をそれぞれ答えてくださっているのですが、文章をちゃんと読まずに下のところだけ見ると、好きなところと嫌いなところに丸付けていってしまう子がいると、先ほどのゴミのエコな取り組み等が嫌いと思って付けるという可能性もあるかなと思ったので、町民アンケートとの対比を単純にするのは危ないかと思いますが、議論の観点としてはとても大切なことだと思いました。

臼井会長

ありがとうございます。あと、いかがですか。4ページで「住み続けたい」の小学生が多く、中学生になると少し外に目が向くというのは最もだという気はします。でも小学生が住み続けたいと思ってくれるのはとても大切なことだと思います。12歳位になるまでの印象がとてもいい場所だということで理解をさせていただければ、それはとても素晴らしいだと思います。この様なアンケートを取ると小学生と高齢者が住み続けたいとなっていて、中学生から20代半ばくらいが積極的に外へ出たいという希望になりますが、若い方が住み続けたいというのは、魅力を感じてくれているということなので、とても大切なことです。

高梨委員

「将来的に戻ってきたいですか」の様なことを聞いたら、住み続けたい割合は、また上がるかもしれないですが、「一度出てみたい」「違うところに住みたい」という様な書きぶりは、「一回出てみたい」みたいな感じもします。

事務局（大屋主任）

ご意見ありがとうございます。先程、高梨委員がおっしゃっていた「帰ってきたいと思いませんか」の様な意見については、今後、小中学校からもこの様なアンケートを定期的にやって欲しいというオーダー

もいただいているので、今回と設問は変わってしまうかもしれませんが、確かに町の構造を考えると、一旦外に出てしまう人が多いというのは人口の動向を見ても目に見える結果なので、「将来帰ってきたいと思いますか」という質問の方が、よりリアルな回答になってくると思うので、そこは参考にさせていただきます。

近藤委員

長期計画故に、次のネクストジェネレーション、「若い世代の意見を入れているよ」と示すことは、是非、若者に発信すべきだと思って見ていました。今、「子どもが帰ってくる」という話がありました。どこの町でしたか失念してしまいましたが、「子どもの帰ってくる町」というのが総合計画に記されている自治体があります。その様な意味でも、子どもを対象に「あなたたちの意見が反映されている」等、コミュニケーションをとっていくのは大事だと私も改めて思いました。重ねてですが、「あなたが町長だったらやってみたいと思うことを自由に書いてください」というのは、非常に興味深く、この意見は私達もとても大事にして審議を進めるべきだと思って見ていました。意見まで。

高梨委員

今の近藤委員のお話に続けてですが、フィードバックがあるということは、若い世代にとって自分達の意見が聞いてもらえたということでも意義があると思います。その質問の項目でメッセージが伝わるということも十分にあると思うので、そのあたりのところで今後も検討していくのが良いと思います。

臼井会長

これ自体は学校へどの様にフィードバックしていくのか、ネットで出すだけか、フィードバックの仕方など考えていることはありますか。

事務局（大屋主任）

まず、この報告書自体は総合計画審議会のホームページの中で公表しようと思っておりますが、それだけでは子ども達に読み取ってもらえないと思うので、教育委員会と連携しながらきちんと報告書を渡せるように共有したいと思っております。

高梨委員

報告書というよりは、多分「皆さんの意見を受けて、例えばこの項目については町でこういうことを取り組んでいます」という。先程、「やっているけど伝わっていない」と言われていたところも、発信していくと、より町と子ども達がコミュニケーションを取っている感じがすると思います。

事務局（大屋主任）

ありがとうございます。

臼井会長

フォローしておくことがとても意味があるということだと思っております、よろしく申し上げます。先ほど議

論した話でも結構ですけれども、あとはよろしいでしょうか。それでは(2)その他に進みます。

(2) その他

事務局（大屋主任）

＜第2回審議会議事録（案）の確認のお願い＞

皆様から修正いただいたもの反映させたものを今日お配りさせていただいています。再度、修正があれば来週末位までにいただき早めにホームページで公開できればと思います。

＜第4回の総合計画審議会の開催について＞

令和5年11月27日（月）15時～（加藤委員15：30頃から出席可能）

事務局（佐野課長）

条文として議会の方で設置していただきました総合計画特別委員会も、先般2回目を10月2日に開催いただき本日の審議会で審議いただいた事項と次回11月27日の審議事項を踏まえて、第4回特別委員会を12月の会期中に開催を調整しておりますので、またそちらの方も合わせて報告いたします。

臼井会長

はい、たくさんいい議論ができました。もし皆さんの方から、特段なければ、今日の会議はこの位にさせていただいて、次回また11月にお会いしたいと思います。これで、令和5年度第3回葉山町総合計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。

終 了